

2024

10.23 (水)

12:10
12:50

12:10-12:15

◆ 演者紹介

12:15-12:40

◆ プレゼン

12:40-12:50

◆ 質疑応答

オンライン
(Zoom)

登録はこちら▶▶

https://us02web.zoom.us/webinar/register/WN_uYgOrGakRsS42U3e406hoQ

【技術支援】九州大学 Q-AOS

応用化学の知見からがん治療を目指して

3 すべての人に
健康と福祉を9 産業と技術革新の
基盤をつくろう17 パートナシップで
目標を達成しよう

Key Words

がん

カーボンナノチューブ

高分子

永井 薫子 助教

九州大学 工学研究院 応用化学部門

1994 年福岡県生まれです。2022 年 3 月に九州大学大学院博士後期課程を修了し、博士（工学）を取得しました。九州大学伊藤早苗賞、井上科学振興財団井上研究奨励賞などを受賞しています。2022 年 4 月より東京大学大学院工学系研究科で日本学術振興会特別研究員 PD を経て、2023 年 3 月より現職に着任しました。「生命とは何か」を知りたいと思い、化学を専門として生化学分野の研究に携わっています。

日本では 2 人に 1 人が、生涯何らかのがんにかかるといわれています。一方で、現在は診断法や治療法が進み、早期に発見・治療できれば「がんは治せる病気」になってきました。がんの早期発見・治療には、感度よくがんを見つける技術や、がんだけを狙い撃ちして治療する技術が必要になってきます。

講演者はこれまでに、カーボンナノチューブや DNA アプタマー、高分子といった化学物質を使って、がんの診断・治療薬の開発を目指してきました。本セミナーでは、化学や工学の観点からがん治療を目指している私たちの研究内容の一部について紹介したいと思います。